

消毒薬の効果的な使い方

平成30年4月に家畜伝染病予防法施行規則が改正され、法に基づく消毒の基準が見直されました。現在、広く畜産分野で行われている消毒方法が反映されるとともに、環境や実施者の健康への配慮、病原体に応じた消毒方法なども新たに加えられました。

これを受けて、公益社団法人中央畜産会から「畜産分野の消毒ハンドブック」がホームページ上に公表*され現場で応用できるよう分かりやすく解説されていますので、一部をご紹介します。

* jlia.lin.gr.jp/eiseis/pdf/disinfect_handbook.pdf

✓ 消石灰は、粉体では強アルカリではない

踏込消毒槽に粉体の消石灰を入れても効果は期待できません。消石灰は、待ち受け消毒として活用するとよいです（農場入口等に消石灰を散布しておき、時間をかけて糞等の有機物の中に含まれた病原体を不活化する等）。また、雨にぬれたり、長時間野外に放置したりするとアルカリではなくなるので、**頻回散布をすることが必要**です。

✓ 逆性石鹼は、低温では消毒効果が減弱

逆性石鹼液で病原体を1000分の1以下まで不活化するのに要した時間は右表のとおりです。**逆性石鹼液に消石灰を0.2%になるように混合してアルカリ化することで、低温でも消毒効果が確保**されます。

病原体	25℃	2℃
低病原性 鳥インフルエンザ	30秒	1時間
サルモネラ	5秒	1分

✓ 長靴交換は効果的

長靴についての病原体を消毒するためには、3～5分を要します。この時間や交換の手間を考えると、**畜舎内専用（それも畜舎ごとに）の長靴に交換**する方が手間がかかりません。さらに、使用後、畜舎内専用長靴を消毒槽に付け込んでおけば、次回使用するまでに殺菌されます。

✓ 作業着の洗濯（状況に応じて消毒を）

通常の洗濯洗剤では、病原体は除去されません。例としては、上記の0.2%消石灰添加逆性石鹼液で3分浸け置きすれば殺菌されます。その後通常どおり洗濯します。

神奈川県湘南家畜保健衛生所

〒259-1215 平塚市寺田縄345

TEL 0463-58-0152 FAX 0463-58-5679